

令和元年度 第1回 国立市立学校給食センター運営審議会だより

運営審議会会長：向井美紀

記録担当：八小・一中

印刷担当：

第1回 国立市立学校給食センター運営審議会

日 時	令和元年7月25日(木) 午後2時から午後3時30分まで
場 所	国立市立学校第一給食センター 大会議室
出席委員	16名、欠席委員 2名、傍聴 1名
教育委員会	1名(是松教育長)
事務局	5名(土方所長、外立主査、青木主査、古川課長、山本主任)
議 題	①委嘱状交付 ②令和元年度役員選出について(資料1) ③令和元年度国立市立学校給食センター運営審議会の年間予定について(資料2) ④令和元年度学校給食センターの事業計画について(くにたちの学校給食：資料3) ⑤学校給食費の改定(案)について(諮問)(資料4) ⑥新学校給食センター整備事業方針(案)について(報告)(資料5) ⑦その他

開会挨拶(事務局)

議題①委嘱状交付

是松教育長が各委員に委嘱状を交付した。

是松教育長挨拶

学校給食の歴史について

給食センター建て替えについて

給食費改定について

委員の自己紹介及び事務局職員の紹介

議題②令和元年度役員選出について

国立市立学校給食センター運営審議会規則に基づき委員の互選により役員を選出を行った。

立候補及び推薦がなかったため、慣例に従い選出することで承認された。

会 長： 向井委員(国立第五小学校校長)
副会長： 山崎委員(国立第二中学校)
監査員： 有馬委員(国立第一中学校)、西村委員(国立第三中学校)

議題③令和元年度国立市立学校給食センター運営審議会の年間予定について

日程は以下の通り確認された。視察は、実施していく方向で検討。

第2回：8月26日(月) 第3回：9月24日(火) 第4回：11月21日(木)
第5回：1月24日(金) 第6回：2月19日(水) 第7回：6月25日(木)

議題④令和元年度国立市立学校給食センターの事業計画等について

事務局から「国立の学校給食」〔資料3〕に基づき、事業計画を中心に学校給食センター全体について説明。

【主な意見等】

●「小・中学校残菜量」について。23年度に比べて残菜量が徐々に減ってきている。残食率10%を超えるという数字は全国的に見てどうなのか？また、アンケートで全体の量が多いと回答があるが考慮する必要があるのでは？

→全国的に統計は取っていない。献立によって残債量が変わる。旬のものを使った献立が多いが、そういうものが苦手な児童もいるため、完全に食べきるのは難しい。残食率10%を切れるように、献立作成委員会や保護者の意見も聞き、努力していく。

→献立メモを活用し、給食指導をしている。低学年は食べるのに時間がかかるため、専科の教員が準備を手伝って時短できる工夫をしている。

議題⑤学校給食費の改定(案)について(諮問)

教育長より諮問書を受けた後、資料4に基づき、具体的な内容を事務局から説明。

【主な意見等】

●物価が上昇を続けると仮定した後に、また質が落ちていく可能性がある、将来のことを考慮されているのか？また給食費改定の資料作成などの人件費はどのぐらい市から出ているのか？

→物価変動により食材の金額変更はあるため、適宜事前チェックや見直しが必要。国立市に限らず、26市の中でも半数近くが消費税増税、献立内容の充実、給食実施基準日の増加などの理由から、改定を検討している。また、人件費については外注や委託しているものではない。事務局の人件費やペーパー代で大きな金額はかかっていない。

●牛乳瓶にこだわる理由は？牛乳瓶にかかる費用を食材に回せないのか？

→国立市は牛乳瓶で、低温殺菌牛乳を使用し、牛乳自体の風味や口当たりが良いと、運営審議委員や保護者から意見をもらっている。また、平成17年料金改定の際に、全校の保護者を対象にアンケートを実施した。85.6%の方が値上げしても牛乳瓶継続をという意見がだされた。

●給食の時間に地震が起きた時、牛乳瓶が割れて危険だが、対策は考えているのか？

→給食の時間に瓶牛乳がどうなるか、地震対策は考慮したことがないため、検討したい。

●現行の給食だと、国の基準、エネルギー量が不足するとのことだが、具体的にはどの栄養素が不足するのか？

→文部科学省が出している摂取基準でエネルギーは小学校650キロカロリーが基準だが、国立市の場合平成30年度は平均636キロカロリー、中学校は830キロカロリー基準で、国立市は825キロカロリー。食物繊維は5グラム以上という基準で、小学校中学年で、4.3グラム、中学校6.5グラム基準で国立市は5.0グラム。逆にビタミンAはレチノール活性当量250マイクログラム以上が基準だが、小学校中学年の場合は329マイクログラム。ばらつきはあるが、一部が上回っていない栄養素もある。

●小学校高学年以上になると男女差がでてきて、男女によりエネルギー量や摂取量の違いがあると思うが、男女で給食費の違いがあってもいいのではないかと？また男女差があることも把握した方がいいのではないかと？

→昨年8月に改定された新しい学校給食摂取基準について、男女別で出された情報はない。国立市でも男女別ではなく、学年別の数字しか統計していない。今後調査してみる。

→文科省基準として、男女で分けていない。実際の給食現場は、限られた時間で量を区別して男女に配膳するのは難しい。

議題⑥新学校給食センター整備事業方針(案)について(報告)

資料5に基づき、事務局から説明。

【主な意見等】

●具体的に今年度はなにをやるのか？また民間のノウハウとは具体的に何なのか？

→今年度は資料の17ページ、18ページの課題の検討。具体的に、事業者を公募するにあたっての内容の明文化する作業。民間のノウハウについては、いくつか考えられる例示を挙げると、現在の給食センターの濡れた床での調理は現衛生管理基準に合致していないため、基準に合致しているドライ運用にするなど。

●ドライにするのは企業や民間に求める必要はない。給食センター職員がノウハウを学べばいいのでは？民間のノウハウを生かしたい具体的な作業性や多角的対応、アレルギー対応についてなど具体的に示す必要があるのでは？

→公募し事業者からの提案も含め、検討を進めていきたい。

議題⑦その他

特になし

閉会挨拶(向井会長)

第1回の給食センター運営審議会終了の挨拶。

次回は8月26日月曜日、午後2時から開催。

[資料1]令和元年度役員選出について

[資料2]令和元年度国立市立学校給食運営審議会の年間予定について

[資料3]くにたちの学校給食

[資料4]学校給食費改定(案)について

[資料5]新学校給食センター整備事業方針(案)について

*資料の詳しい内容については市のホームページをご覧ください。